

公益信託世田谷まちづくりファンド

第20回助成事業 審査講評

はじめの一步部門

【部門全体講評】

＜運営委員長 土肥真人＞

公開審査会に先立つ運営委員会での慎重な書面審査の結果、7件全てが助成対象グループとなりました。おめでとうございます。皆さんの一歩が世田谷のまちに刻まれることは、確実にこのまちの暮らしを豊かにするものです。どうぞ皆さんのアイデアを実現してください。一年後の活動報告会を心から楽しみにしています。どうぞ楽しみながら、がんばってください。

公益信託世田谷まちづくりファンド

第20回助成事業 審査講評

全体講評

【運営委員長 土肥真人】

今年は世田谷まちづくりファンドの設立 20 周年の記念すべき年です。日本で初めて、公開審査とまちづくりのアドバイスをセットにした「まちづくりファンド」ですが、この 20 年の蓄積はしっかりと町々に刻まれ、人々の暮らしに生かされていることを実感しています。これまで世田谷まちづくりファンドを支え、発展させてこられた多くの関係者、市民の方々に敬意を表します。

さて、私が運営委員長になってから、6月の公開審査会も3年目になりました。世田谷方式とも言われる公開審査は、私たち運営委員にとって、市民として市民の前に出て、市民の提案を審査する場面で、何回やってもその重責にものすごく緊張します。しかし一方で審査の後には、世田谷のまちに今年も蒔かれたまちづくりの種にホッとします。そしてその収穫つまり来年の報告会が本当に楽しみになります。今年も多くの応募がありました。「はじめの一步部門」に7件、「まちづくり活動部門」に22件です。そして、応募された全てのグループが助成を受けることになりました。（これはファンド始まって以来、20年間で初めてだそうです。）この他に、3月3日に公開審査会を行った「災害対策・復興まちづくり部門」4件、5月26日に公開審査を行った「まちを元気にする拠点づくり部門」1件（予備審査通過）の計34グループが今年度、ファンドの助成を受けて世田谷のまちや東日本大震災の被災地のまちで活躍します。

今年に応募されたすべての提案・活動が、助成対象になったことから解かるように、全体的に非常にレベルの高い申請内容だったと思います。私は始めて申請されたグループについては、提案内容の新規性、実現性、規模などの観点から判断しました。2回目以降のグループは、昨年までの活動実績をまず評価し、次にその展開性を判断の根拠としました。またできるだけ、メリハリをつけた評価をするように心がけました。この結果、「満額」が

7 グループに、助成は適当でないとしたのが2グループとなりました。その他のグループは特に活動の規模から助成額を提案しました。

今年も昨年度に引き続き、第20回(2012年度)公開審査会と第19回(2011年度)活動報告会を同日開催しました。朝9時半から午後5時過ぎまでの長い一日でしたが、次から次に繰り広げられるまちへの提案や活動に圧倒されて、あっという間に終わったような気がします。活動報告会は、公開審査の間に行い、今年は10グループ(内1団体欠席)がファンドを卒業されました。報告の順番は、昨年同様、「つながり順」に行っていました。この1年間に世田谷で繰り広げられた様々な活動が、「高齢者」「外」「多世代」「友人」などつながりながら報告されました。お疲れ様でした。これからも大いにまちを舞台に活動を繰り広げていただきたいと思います。

また活動報告会の後に、私も時間を頂いて、主に世田谷の地図を用いたファンド20年の蓄積や昨年度のファンドグループの「つながり」、ファンドの仕組みなど、スライドを用いて発表しました。世田谷まちづくりファンドは行政の補助金ではなくて、市民みんなが判断し配分する市民のお金のプールなのだというお話もしました。皆さんが真剣に話を聞いてくださって、このファンドはこれからも市民の皆さんに大きく育ててもらえるであろうことを確信しました。

最後になりますが、運営委員の小河原さん、鶴尾さん、佐谷さん、市川さんは、今年度で運営委員としての任期が来ます。まだほぼ1年間お世話になりますが、6月の一番大きな公開審査会はこれが最後になります。4名の委員の方々には、新米の運営委員長として何かから何まで教えてもらい、支えていただきました。そしてファンドについて共に考え、行動しました。本当に感謝しております。ありがとうございました。またこのファンドの運営委員は公募制です。我こそはという方の応募をお待ちしております。運営委員になって一緒にこのファンドを育ててみませんか!?

<1-1 世田谷・L i e n>

・活動の目標はよく理解できました。ただ二つの点で活動内容に疑問を持ちました。1点目は、「子育て・介護複合課題」に対して、高齢者の介護予防の場を作って働く女性の負担を軽くするという回路は、ちょっと遠回りに感じるということです。より直接的に働きかける方法はないのでしょうか。2点目は、まず事務所を開きNPO化を図る活動計画です。一定の活動実績を作られてからの方が妥当ではないかと思いました。

<1-2 アルファキッズクラブ>

・「顔の見える子育て支援」を実践されていることが、わかりました。継続していただきたい活動だと思います。気になったのは、まちづくりへとどのように連なるのか、という点でした。リズム遊びが親子を良くして、それが町を良くするというのもわかるのですが、より直接的に町に働きかける方法を考えていただきたいと思います。

<1-3 よみきかせボランティア藤の会>

・高齢者の方々は、皆様の読み聞かせをととても楽しみにしているのではないのでしょうか。その雰囲気伝わってきました。私が良いなと思ったのは、読み聞かせの講習会を開いて、この活動に関わる新人を発掘しようと言う企画です。新人の獲得もさることながら、この過程で多くの人が、同じ町にある高齢者施設のことを考えるようになるのではないのでしょうか。

<1-4 世田谷区民のライフスタイルを考える会>

・現在実践されている活動は、時宜を得たもので、また重要なものだと思います。またこれまでの勉強会中心から実際の活動へのシフトを考えていることも理解しました。ぜひより多くの区民を巻き込む方途を探られ、この場所にしかない世田谷式ライフスタイルの姿を発見、提示していただきたいです。

<1-5 アート・イン・ファーム世田谷実行委員会>

・農地の多様な価値をアートを通して顕現させるというアイデアと、実現している力量に感銘を受けました。「この場所でしか成立しない参加型のコミュニティ・アート」にできるだけ多くの多様な地域の人々を巻き込んでください。来年の成果発表では、美しいアート風景に加えて、コミュニティへのフィードバックがいかに実体化したかを教えて欲しいと思います。

<1-6 トランジション世田谷 茶沢会>

・昨年のソーラーパネル手作り WS の実績の上に、今年度は多角的な展開を狙うということだと理解しました。発表会でも答えていただきましたが、マルシェにもコミュニティ・ガーデンにもソーラーパネルを絡ませていくことが、アイデンティティになってゆくのではないかと思いました。

<1-7 下北沢発：シンデレラ・プロジェクト>

・ピンク色の優しいデザインのポスターや募金箱が下北沢のあちこちに置かれ、このまちの優しさを表す！すると人がたくさんやって来て、下北沢にも被災地にも関わって皆が幸せになる！そんなイメージが素直に浮かびました。すでに下北沢の1割近くの商店が参加されているという説明にも力強さを感じます。来年の報告では多くのピンク色の募金箱のある下北沢の優しい風景を見せていただきたいと思います。

<1-8 猫家>

・「地元で寄席を作りたい。」最初はまちづくりと関係あるのかな、と思いましたが、このプロジェクトは人―地域―文化を三大演目としている、との説明には大きくうなずきました。もともと落語は、人―地域―文化の生み出した芸能ですものね。（ぜんぜん詳しくないのですが、そんなイメージです。）このプロジェクトには、まちづくりに大きな展開をもたらす可能性を感じました。

<1-9 フレンドリーグループ>

・花があると生活が豊かになりますよね。食と花とのコラボレーションも理解できました。私は特に、「育てた花を子どもたちや地域の高齢者の方に届けてあげたい。」というアイデ

ィアの実現をお願いしたいと思います。地域の公園で手塩にかけられて咲き誇る花々が、地域の多くの家々に届けられ、家々に幸せをもたらすとしたら、これはすばらしいことだと思うのです。実際に育てられる花の数やどの家に届けるのか等、大変なことがあると思いますが、ぜひトライしていただきたいと思います。

<1-10 あかねこうぼう>

・素晴らしいポスターでした。「地域の笑顔を耕す、育てる、実る」というステップと、それを実現されていることが良く理解できました。地域の他のグループとの協働も進んでいるとのことで、本当にたくさんの笑顔が実りそうですね。確実に歩まれていることに敬意を表します。

<1-11 子どもでつながるハートくらぶ>

・昨年の活動実績、今年の活動提案共に、とても必要なものだと思います。まちのみんなで子どもを育てる共育は、確かに昔はそうだったですよ。この「みんな」をまちのネットワークの提案と発展を通して、広げていただけるものと思います。この意味では、子どもが「みんな」を育てるのかも知れませんね。

<1-12 どんどんガガガ隊！>

・確かに、こどもよりも大人にガガガが必要です。まちにもガガガが必要ですし、音楽とのコラボ・ガガガも楽しそうです。子ども達の絵=作品をどのように活用するのか、大人やまちへのガガガの進出に関係するのか、今年もガガガ・ムーブメントの展開から目が離せません。

<1-13 世田谷環境学習会>

・実力のあるみなさんですから活動には長年の実績があることと思いますが、前年度の会計や事業報告が出ていなかったのは残念でした。助成金もいつまでも続くわけではありませんので、どうやったら活動の継続や場の維持につながるような資源の確保（資金、人材など）をできるのか、ぜひとも検討をお願いしたいと思います。

<2-1 千歳小おやじの会>

・毎年思うのですが、皆さんは地域の「気の優しい力持ち」のような存在ではないでしょうか。子どもたちは親父たちの背中を見て多くを学び、「思いやりと感謝の気持ち」は確かにバトンタッチされるのだと思います。皆さんの地域での活動が、すぐに役立つのと同時に、未来への希望の種を蒔いていることを痛感します。お母様たちも会員になられたとのこと、さらに力強く地域を支えてください。

<2-2 からすやま地域の力を集める会>

・昨年のおおぞら WS の成果として自転車問題があがり、今年は自転車との共存をはかる烏山エチケットの確立を目指す、というシンプルなストーリーは、シンプルであるだけに説得力があります。ただ、昨年のおおぞら WS が意見を求めるものであったのに比して、

今年は提言あるいはその実施に関わるものである分、難しいあおぞら WS になるのではないのでしょうか。ぜひ鳥山エチケット、鳥山ルールを実現してください。

< 2-3 NPO 法人 玉川にエコタウンをつくる会 >

・駅前緑化が、東急との協力の下実現したのは、素晴らしい成果だと思いました。今年は高校跡地の利用がメインテーマになる印象を受けます。ぜひ丁寧に住民の皆さんの意向を汲み、またサイトのデザイン WS などへと繋げていただきたいと思います。言葉だけでは対立しているように見える意見も、図面の上では共存できたりします。ぜひ一度、活動現場を訪れさせてください。

< 2-4 アロマ×セルフケア協会 S e l f e e l (セルフイーエル) >

・香りと健康と地域という、ちょっとつなげて考えるのが難しいアプローチだと今年も感じました。しかし、香りは頭の理解を超える訴求力を持つのもその通りだと思います。よりまち（寄り道？）カフェが、まちの空いている時間、場所にサッと立ち上がるのは、ふっと香りが立つようなイメージです。ぜひ実現してください。

< 2-5 街づくりの仲間たち >

・区の政策や計画を区民が学び、提案を行うのは、難しいけれども民主主義の大切な一面だと思います。昨年度の活動はよく理解いたしました。広く区民を巻き込む「場」の創造には至っていないのではないかと判断しました。ポスターセッションでお話が聞けなかったのも残念で、今回は助成の妥当性を判断できませんでした。

< 2-6 働きたいママの応援C a f e >

・活動の趣旨には昨年同様共感を覚えます。ただ昨年の具体的な活動成果が、私にはよくわかりませんでした。「子連れで働く新アイデア」や「地域につくる子育てママの仕事創出」など今年の具体的な活動イメージも同様に、よく理解できなかったです。来年の報告では、なるほどそうだったのか！という活動成果を教えてくださいたいと思います。

< 3-1 東京グリーンプロジェクト >

・昨年の活動に参加した子どもたちのお手紙、うれしいですね。「健康な土には農薬はいらない」という単純な事実には目からうろこが落ちるようでした。また東京の野菜や穀物を育てることで自分たちの地域を確かめ、食べることで身体化するのも、すばらしい。今年は食育劇を活動に取り入れるとのことですが、自分たちの育てた東京の大豆が今度は微生物の働きで発酵しておいしい味噌になることを、きっと子どもたちは大喜びで学ぶでしょう。来年の報告を楽しみにしています。

< 3-2 フラワーランド園芸ミニディ >

・なんと楽しそうなプレゼンテーションだったのでしょうか。皆さんが本当に愉しんで花を育て、いろいろな施設の方々の心を元気にしていることが、伝わってまいりました。ファン卒業後の布石も着々と打たれているとのこと、心強いです。今年はもちろんですが、

来年以降もこの活動を続けていくことは、本当に大事ですものね。「花の持つ力」で何事も楽しみながら乗り越えて、生きがいのあるまちを実現してください。

<3-3 野川（世田谷区部）の多自然川づくりを考える連絡会>

・河川の断面を浅く広く取って氾濫域を増やすことで、外来植物を駆逐するという手法は、アメリカの例では聞いたことがあります。こんなに身近にもあるのだということをお教えいただきました。カワセミや川の生き物や川自体の美しさと楽しさに、出来るだけ多くの地域の人々を、私も含めて、巻き込んで欲しいです。あと「兄弟河川」について質問するのを忘れました。今度教えてください。